



二学期がスタート！一人ひとりが「自分ができる事」を大切に

【二学期始業式から・校長の話 概要】
※南アメリカの先住民に伝わる短いお話を紹介して、子どもたちと一緒に考えました。

「ハチドリの一ひとしずく」

森が燃えていました。
森の生き物たちは、われ先にと逃げていきました。
でもクリキンデイという名のハチドリだけは、
いったりきたり、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落とすしていきます。動物たちがそれを見て、
「そんなことをして、いったい何になるんだ」と言って笑います。
クリキンデイは、こう答えました。
「私は、私にできることをしているだけ」



みなさんは、このお話を聞いて、どのような場面を想像しましたか？校長先生は、他の動物たちから無駄なことをしていると笑われても、森の火事を消そうと、ハチドリが水のしずくを一滴ずつ運んでいる姿が目には浮かんできました。みなさんは、このクリキンデイという名前のハチドリのこと「ハチドリの一ひとしずく」のお話は、私たちに「今、自分にできること」は何かを考え、真剣に、勇気をもって行動することの大切さを教えてくれると思います。みなさんも、毎日の生活の中で、自分ができているいろいろなことをしています。朝、元気にあいさつができています。友だちがすばらしいことをしたら、拍手を送ることができています。授業中、友だちと意見を言い合い、学びを深めることができていると思います。他にもたくさんあると思いますが、今年度は、次のようなこともできています。感染症予防のため、三密をつくらないようにしています。マスクをつけたり、手洗いをしっかりしたりしています。感染症の三つの顔、「病気」「不安」「差別」を正しく知って、感染症に負けないようにしています。

確かに、感染症や熱中症の事に気を付けなければいけないので、楽しくて充実した、そして思い出せば二学期は難しいと思うかもしれませんが、是非、ハチドリがクリキンデイのようにこんな時だからこそ「今、自分にできること」をしっかりと考えてほしいのです。観音寺小学校は、五六四人の子どもたちと、五〇人の先生方がいます。その一人ひとりが、「今、自分にできること」を考え、それを持ち寄って、勇気をもっていろいろな挑戦をすれば感染症や熱中症に負けることなく、今まで経験したことのないような、素晴らしい二学期を過ごせるはずですよ。さて、「ハチドリの一ひとしずく」のお話を先住民から聞いて日本語に訳して本にした、辻信一さんは、本の最後にこう書いています。

「さて、燃えていたあの森はその後、どうなったでしょう。森は燃えてなくなってしまうたでしょう。それとも……。物語の続きを描くのはあなたです」と。
みなさんは、どのような続きを考えますか？考えてみてください。

《お知らせ》2学期の予定

- 新型コロナウイルス感染症の県内の状況から、学校だより5号でお知らせした**2学期予定を一部変更**します。
- ① 6年生修学旅行は、**県外宿泊をやめ、県内日帰り2日間**に変更します。(詳細は後日)
 - ② 5年生宿泊学習は、**宿泊をやめ、1日だけの野外活動**に変更します。(詳細は後日)
 - ③ 10月のスポーツ大会、11月の授業参観は、学年・クラスなどの**分散実施及び保護者の人数制限**をして実施を予定しています。(詳細は後日)
- ※上記は現時点の予定で、変更することがあります。

がんばった子どもたち①

- 【表彰】
- 第27回「世界こども図画コンテスト」
国内優良賞 6年 山本 真子
 - 第15回「しきなみ子供短歌コンクール」
入選 5年 田中 寅之亮
佳作 5年 横山 珠杏
- 【学年チャレンジ】
- 2年生 「手あらいをしよう」
 - 3年生 「必ず手洗いをする」
 - 4年生 「席をはなれる時は、いすを入れる」

裏面に、6月末に実施したアンケート結果を載せています。今後の御参考にしてください。